第五回研修会

九月九日（金）に本年度第五回研修会として、賢治にまつわる種山ヶ原と「石と賢治のミュージアム」に行って来ました。当日は朝から快晴の下、総勢二三名、大学のバスで出発しました。

【五輪峠】途中「イーハトーブの風景地」に指定された五輪峠にも寄る予定でしたが、大型バスでは入れない峠道なので、入口で停車し資料により現地状況の説明をしました。峠の上には下の写真のような五輪の搭があります。昔この峠で亡くなった武士の菩提を弔うために、ここに五輪石を建立したところから五輪峠といわれるようになった由。

賢治作品には「春と修羅・第二集」に登場しますが、賢治自身は一度しか訪れてないとのこと。研究家によれば「古代信仰にひかれた賢治が、土俗的な風景に共感・共鳴したのではないか」と推測しています。

【種山ヶ原】昼食を兼ねて種山ヶ原に寄りました。山頂の物見山が見晴らせる「星座の森」で下車し、風の又三郎像（左写真）を入れて数ショット。

気持の良い快晴で、山頂や周りの放牧地が良く見通せました。高原の空気は一味違いました。ここには宿泊出来るログハウスも有り、家族連れでゆっくり楽しめそうです。

【石と賢治のミュージアム】東山町の猊鼻渓近くにある施設です。専属のガイドさんの案内で見学しました。この博物館は「太陽と風の家」なる本館と賢治が晩年に技師として奉職した旧東北砕石工場から構成されております。本館の展示は石ッコ賢さんが好きだった鉱石見本と賢治と砕石工場とのかかわりを示す資料等でした。砕石工場の方では石灰石を採掘した坑道を含め、石を粉砕してタンカル（肥料用炭酸石灰）を製造する一連の工場施設を見学しました。ガイドの皆さん方が解説の際、尊敬を込めて、賢治さんと「さん」付けで呼んでいたのが印象に残りました。（小原）

市民との交流事業

賢治ツアー

昨年の第一回宮沢賢治キャンパスツアー実施以来、市民との交流行事の定番となっているキャンパスツアーは十月十五日午後一時から行われ、七十一人の市民が参加。宮沢賢治が盛岡高等農林学校の学生として青春時代を過ごした跡を訪ねた。

同日は朝からあいにくの雨降りだったが、参加の市民たちは傘を手に岩大ミュージアムキャンパス解説ボランティアたちの案内で旧自啓寮跡の森や研究棟跡などに賢治らの青春をしのんだ。

午後一時前に農学部研究棟一号館前に市民を迎えたボランティアたちは、集まった市民たちを一人で数人ずつに手分けして学内を案内。

中にはボランティア一人にツアー参加市民一人のグループもあって、自然豊かなキャンパスをゆっくりと見学して歩いた。

参加者の中には盛岡市民ばかりではなく、県外の横浜市、茨城県、福島県からの来県者もいて、岩手大学の自然と伝統の豊かさを満喫していた。

ボランティアの会では今回も参加者を対象にアンケート調査を実施したが、回答者は八四人。殆どの人が音楽会にも参加して上田の杜の音楽を楽しんだという。

ツアーについては八〇％の人が「良かった」と回答しており、またキャンパスに来たい、岩大について、知っているつもりで知らないことがたくさんあることを知ったのも収穫だった、などの感想を会に寄せている。

同日の参加者の一人斉藤愛子さんは、「近くに住んでいながら、こんなにない空間があることに気が付かなかった。ツアーはこれを知るよい機会になった」と言い、感動を隠せない表情だった。

特に自身も短歌を学んでいる斉藤さんにとって、自啓寮跡の植物園「自啓の森」に今も残る名木とそれに宮沢賢治が残した歌「あさひふる　はくうんぼくの花に来て　黒きすがるらしべを噛みおり」（はくうんぼくの歌）「年わかき　ひのき揺らげば日もうたひ　碧きそらよりふれる綿ゆき」（ヒノキ